

第3回養徳学舎活用検討会

資 料

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

(1) 機能強化について

【第1回検討会】

①交流機会の創出や人材育成の取組

- ・スタートアップ企業は若い人との接点を求めている。一緒に住んでもらい、**交流の場が生まれるように工夫**すると良いと思う。
- ・関東の若者を奈良県に呼び込むために、**県内の大学や企業と首都圏に住んでいる若者との交流の場として活用**できないか。
- ・養徳学舎をもう少し開いた活用をすることで、寮生間のコミュニケーションだけでなく、**色々な方々との交流の場**にできれば良い。
- ・マーケティングで新商品の相談を受けることがあり、そういった接点でも活用できればと思う。

②奈良県とのつながり

- ・経営者という立場で人を採用したいと思った時に、近いコミュニティから来てほしいという思いで卒寮生を採用したケースもあると聞いている。**現役学生とOBが交流できるような仕組み**を作れば交流も進むのではと思う。
- ・これからはどこでも働けるし、どこでも住める社会になっていくと思う。**奈良に興味を持つとか奈良に愛着を持つというものとセット**にすることで、結果的に奈良に関わることになれば良いのではないか。
- ・奈良県出身の学生が急な経済的困窮に陥った場合、**東京で頼れる場所**があるのは重要かと思う。
- ・学生に東京に養徳学舎があることを知ってもらうための**周知方法を改めて確認することが大事**。

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

【第2回検討会】

- ・ 今回の素案は、これまでの議論の内容を盛り込んだものになっており、これを基に検討を進めることと了承。
- ・ 奈良県との繋がりというものもありつつ、人材を育成していくために、県外の人や組織も活用して充実させる取組もあれば良い
- ・ 学生が交流の場に参加するためには、学生の意思と費用面の負担をいかに軽減できるかが重要。学生が交流の場に参加しやすい環境や体制をどう作るかについては、費用面のサポートも重要だと思う。
- ・ 活用方針について、この中でも強弱をつけた方が良いと思う。中でも、卒寮生（OB）との交流を促進すべきと感じている。養徳学舎の学生が最もOBと交流を希望するのは就職活動の時だが、現状では卒寮生（OB）を辿るのは困難。このため東京にいる学生が、東京や奈良で仕事を探す時のきっかけとして、OBの方から能動的に働きかけできる環境が作れればと思う。
- ・ 現在の案では人の交流がメインになっているが、例えば、今ある図書スペースを活用して、有効活用できる情報（「奈良を感じさせるもの」、「これまでの寮の記録集」など）を蓄積することでもできればと思う。

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

【在寮生、OB、東京在住県出身女子大生等からの意見】

①交流機会の創出や人材育成の取組

- ・ 学生でルールを決めて学生で運営していくことが養徳学舎の大きな魅力であるが、例えば交流する機会への参加など、少し強制的に巻き込むような体制もあればよかったと思う。
- ・ まほろば館がイベントに出店する際、寮生にも来てもらえば、アンテナショップとのつながりを持てると思う。
- ・ 「ふるさと奈良の集い」へ参加したが、（奈良県関係者との）コネクションができてよかった。
- ・ 会社で仕事を作る立場になり、学生の力を借りたいときに、自分の出身である奈良県や寮生でかつスキルマッチングできる人材がいれば働いて欲しいと考えている。

②奈良県とのつながり

- ・ 奈良でのキャリアを知ることができる機会が増えれば、奈良への愛着も湧いてくると思う。
- ・ 寮生活は学生生活の一部にすぎず、どれくらい寮にコミットするかは人によってかなり差があるので、OBや社会人と積極的に交流したい人ができるような体制があればいい。
- ・ 在籍当時から養徳学舎OBと現役生の繋がりが希薄であると感じていた。

【アンケート（高校生・在寮生）】

①交流機会の創出及び②奈良県とのつながり

- ・ 「奈良県にゆかりのある方々との交流の機会を設けた場合、参加してみたいと思うか。」という問に対して、「思う」と回答したのは、高校生が31／194名、在寮生が13／24名。
- ・ 交流を希望する方は、高校生では「奈良出身で東京で起業している方」が22名、「養徳学舎OB」が8名の順で、在寮生では「養徳学舎OB」が7名、「奈良出身で東京で起業している方」が6名の順で多かった。
- ・ 養徳学舎において企画・実施してもらいたいことは、在寮生からは「寮祭」、「企業説明会」などの希望があった。

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

【在寮生、OB、東京在住県出身女子大生等からの意見】（追加分）

- ・実家から職場に通えるのは一つの大きなメリットと思うので、奈良県でどのような仕事があるのか学生へ紹介する場があれば、選択肢の一つになり得たのではないかと思う。
- ・在籍当時から養徳OBと現役生の繋がりが希薄であると感じており、例えばOB名簿を充実させれば良いと思う。
- ・交流機会の創出については、受け身の寮生も巻き込む場所を生み出す必要があるのではと感じている。そのため、もっと県などが絡んで交流できる場所を増やせばいいのではないか。
- ・アンテナショップや東京奈良県人会の人との交流の場には参加したいと思っている。
奈良県の方と関わりを持つ機会は、これまでコロナの影響等でなかったが、最近、規制等がなくなり養徳学舎の渉外担当も、イベント等を積極的に紹介してくれているので関わりを持っていきたいと思う。
- ・交流する社会人は、必ずしも養徳学舎OBである必要はない。しかし、OBとの関わりが持てるような環境を構築できれば、養徳学舎に住んでいるメリットの1つになると思う。
- ・舎監からOBとの交流に関するお話をいただいた時も、会社名だけが共有されOBの氏名もわからず不安に思うことがある。名簿であったり、どこで誰が働いていてどういう人がいたのかという情報がないと、今後OBと繋がりを持つことは困難だと思う。

(1) 機能強化について

活用案

第1章 養徳学舎の機能強化について

1-① 養徳学舎に期待する機能

奈良県では人口減少や若者の県外流出が深刻な問題となっている。特に若者の多くが進学や就職を機に県外に流出し、そのまま戻らない傾向がある。

このため、養徳学舎にこれまでの寮としての機能に加え、奈良県と学生とのつながりを強化し、奈良県への愛着を持てる新たな拠点とする。

また、学生、奈良県、企業等をつなぐ交流機能を持たせ、学生が奈良県の地元企業に関心を持ち、奈良県で働くことについて考える機会を創出する。

さらに、奈良県出身者や県内企業、地域住民をはじめ多様な主体との交流を通じ、社会や地域に貢献できる人材を育成する。

1-② 具体の取組（ソフト面）

養徳学舎を拠点として、寮生が奈良県とのつながりを深めながら、将来県内外で活躍し、また、地域に貢献できる人材となるよう、以下の取組を行う。

a 奈良県を知る・関わるための取組

・ 奈良県関連イベントへの参加・参画機会の提供

寮生が参加・参画し、奈良県内の自治体や企業等と連携したイベントを開催するなど、地域活性化に貢献できる場を提供する。

・ 奈良の歴史・文化を知る機会の提供

奈良の歴史・文化を学ぶ講座・ワークショップの開催や、奈良県に関する図書を配架することにより、寮生が奈良県の歴史や文化を知る機会を提供する。

(1) 機能強化について

活用案

b 奈良県への愛着の醸成

- ・ 奈良県出身者と交流できる場の提供

寮生と奈良県出身者とが集まり交流できる場を提供し、奈良県への愛着を醸成する。
寮生に限らず、奈良県出身者の交流や活動拠点に活用できる場とする。

- ・ 東京奈良県人会との連携強化

特に、東京奈良県人会との連携を強化し、寮生と県人会会員との交流を活性化させる。

c Uターン・Iターンの推進

- ・ 奈良県の企業と連携し、寮生や奈良県に興味がある大学生等と県内企業がつながる機会を提供し、Uターン・Iターンを推進する。

d 社会や地域に貢献できる人材の育成

- ・ 奈良県とつながりのある方や組織に限らず、県外を含め、多様な主体との交流を通じて、社会や地域に貢献できる人材を育成する。

このほか、養徳学舎における取組以外にも、東京にある奈良県の情報発信拠点「奈良まほろば館」と連携し、寮生が奈良県関連のイベントなどに参加できる機会の提供や、「ふるさと奈良のつどい」など、奈良県にゆかりのある方々との交流を促進するイベントに参加できるよう支援を行う。

(1) 機能強化について

活用案

1－③ ハード整備

1－②に記載の取組をより効果的に実施していくため、既存の設備を活用しながら、以下のハード整備を行う。

a 地域交流スペースの確保

- ・ 奈良県関連イベント等の開催や、奈良県出身者との交流などが実現可能な地域交流スペースを確保する。

b 学習・コワーキングスペースの確保

- ・ 奈良県出身の社会人や就職活動中の学生、インターンシップ生などが東京での活動拠点として活用可能な学習・コワーキングスペースを確保する。

1－④ 推進体制等

1－②に記載の取組を着実に推進していくために、以下のような対応を行う。

a ソフト面

・ 推進体制の構築・運用

寮生・県の役割や、養徳学舎OB・東京奈良県人会など関係者による支援、ノウハウのある民間事業者への委託の有無など推進体制を検討のうえ、構築・運用する。

・ 取組成果の検証

毎年度、取組の成果を分析・評価し、その結果を次年度の取組に反映させる。

・ 寮生以外の利用に関するルールやガイドラインの策定

寮生以外の外部の方が養徳学舎を利用する際に遵守するルールやガイドラインを策定する。

b ハード面

・ 寮生以外の利用者増加への対策

寮生以外の外部の方の利用機会増加に対応するため、セキュリティーの強化や居住エリアと地域交流スペース等との分離などの対策を行う。

(2) 女子学生の受け入れについて

主な意見（抜粋）

(2) 女子学生の受け入れについて

【第1回検討会】

- ・女子学生の受け入れは前向きに進めて欲しい。なお、セキュリティー面はよく考えた上での改修が必要。
- ・トイレとシャワーは男女で鍵を分けたり、ランドリーも男女で分けるなど、ハード面での工夫が必要。
- ・フロアをジェンダーで分けるより、バラバラにできると良いのでは。ただし、運用面でのケアと学生に向けた研修やガイダンスのセットは必須。

【第2回検討会】

- ・今回の素案は、これまでの議論の内容を盛り込んだものになっており、これを基に検討を進めることで了承。
- ・アンケート結果等からも女子学生の受入は好意的であると感じる。水回り（風呂、トイレ、ランドリー）の場所や区域を分けることは、運用とセットで必須。
- ・ネガティブな意見として「男子寮の良さがなくなる」とあるが、男子寮特有の雰囲気があって、その点が楽しいと感じるかもしれない。とはいえ共用寮にも特有の楽しさがあるので、楽しさの質が変わるだけであまり問題がないように思う。男子寮特有の良さもあるが、女子学生を受け入れるべきだと思う。
- ・学生の中で解決できないトラブルが起こった場合に、舎監や寮母がケアしてくれたことがあった。また、初めての一人暮らしかつ親元を離れるので、舎監や寮母のような方が居ると、送り出す親にとっても、セキュリティー上安心だと感じるのではないかと。
- ・女子を受け入れる際の運用面もちろん重要だが、同時に、お金はかかるがしっかりと設備は必要。セキュリティーのハード面や管理者の在り方などのソフト面の両輪で考える必要がある。
- ・女子学生を受け入れる際は、まとまった人数を受け入れることが大事。施設内の運用面とセットで、居づらさやマイノリティだと感じる状態になれば、新たなコミュニティとして上手くブレンドされていくと思う。

(2) 女子学生の受け入れについて

主な意見（抜粋）

【在寮生、OB等からの意見】

- ・ 養徳学舎に女性を混ぜるよりは、違う場所に新しく寮を作った方が現実的と感じる。
- ・ 男性しか入れないという状況が不自然だと感じており、女性を受け入れる体制を整えることは必要だと思う。共用寮とするのか、完全に分けて運営するのかについては、交流機会の促進という面からも共用寮の方が魅力的だと思う。
- ・ 高校まで男子校だった在舎生も多く、社会に出る前に異性と交流できるのは有意義だと思う。

【東京在住県出身女子大生等からの意見】

- ・ お風呂や洗濯場所の部分で動線が分けられていて、部屋のロックやセキュリティーが納得できれば男女共用寮については良いと思う。
- ・ 以前いた男女共用寮は、男女共用部分は1階の玄関、キッチン、ご飯を食べるスペースのみだった。キッチンでは、男女の交流があったので、男女共用寮は魅力的だと感じる。

【アンケート（高校生・在寮生）】

- ・ 「今後、男女共用の学生寮とすることについて、どう思うか」という問に対して、「良い」と回答したのは、高校生が49／194名（「良くない」が12名、「どちらでもない」が133名）、在寮生が7／24名（「良くない」が8名、「どちらでもない」が8名）であった。
- ・ 高校生からは「女性にも同様に選択の幅を提供すべき」や「女子でも都市圏の大学に通いやすくなる」、「男女共用にすると、男子の入寮できる絶対数が減るので、女子寮も作ればよい」などの意見が寄せられた。
- ・ 在寮生からは「女性の大学進学の実選択肢が増える」、「居住スペースの分散ができない」、「男子寮の良さがなくなる」といった意見や、「突然、男女共用の寮にするという動きが出てきたが、慎重を期すべきである」と考える。しっかりとした調査、先例などを確認して「形式的」な男女共用にならないよう願う。」という意見も寄せられている。

(2) 女子学生の受け入れについて

主な意見（抜粋）

【在寮生、OB等からの意見】（追加分）

- ・ 場所だけでなく、そこに至るまでの動線も分ける、分けないを意識して考えないと設備的に全然違ってくると思う。
- ・ 各個室に水回りが備え付けられていればフロアを分ける必要はないかと思うが、**水回りが各個室にないのであれば、フロアは分けるべき。**
- ・ **フロアは分けるべき。**フロアごとに風呂場等を設けて男子と女子で動線を分けることができれば上手くいくと思う。
- ・ 社会人の信頼できる人が常時いる方が安心感があると感じる。親代わりという役割的にも、**民間の顔なじみのない人をお願いするより、舎監のような人がいた方が良い。**

【東京在住県出身女子大生等からの意見】（追加分）

- ・ **お風呂、トイレ、洗面所及び洗濯は絶対に分けた方が良い。**フロアも本来分けるべきと思うが、部屋のロックやセキュリティがしっかりしていれば一緒でも仕方ないと思う。
- ・ **フロアはできれば分けて欲しい。**洗濯やお風呂を分けても、そこから部屋に戻る時に抵抗がある。
- ・ 男女共用寮であれば、**秩序を保つためにも舎監は必要**だと感じる。女性を入れるのであれば**女性の寮母がいた方が絶対に良い**と思う。
- ・ 女性からすると、**同性の寮母がいると相談しやすいし、安心できる。**宅配については男女どちらの舎監でもいいと思うが、**心のケアの面では寮母がいた方が安心する**と思う。
- ・ 寮母はいた方が良いと思う。隣の人の騒音が気になった場合や、部屋の備品が壊れた場合などもすぐ相談して、**部屋に見に来てもらうことにも抵抗がない**と思う。

(2) 女子学生の受け入れについて

活用案

第2章 女子学生の受け入れについて

2-① 女子学生の受け入れに対する考え

近年、奈良県女子学生の東京圏への進学率が高くなっており、これまで公的な学生寮（養徳学舎）では男子学生のみを受け入れていたが、女子学生に対しても学生寮の提供は必要であり、他の自治体でも、男女別、あるいは男女共用の学生寮を設置・運営するケースが増えている。また、奈良県では、大学進学や就職を契機に東京圏をはじめ、県外に流出する若者が多いことを鑑み、第1章に記載の機能強化を行う上で、その効果や便益をより多くの人に享受してもらうため、女子学生を受け入れることとする。

これにより、男女での共同生活を通じて、寮生のジェンダー意識やコミュニケーション能力の向上に期待できる。

2-② 受け入れるにあたり必要な対応

現在の施設や設備、生活ルール等は、男子学生のための受け入れを前提としているため、男女ともに住みやすい学生寮となるよう、ハード・ソフト両面にわたる対応を行う。

a ハード面

- ・ 居住エリアの分離とセキュリティー強化

男女それぞれの居住エリアの分離や居住エリアまでの動線の分離、各居室のセキュリティー対策など、寮生が快適かつ安心して共同生活できる環境を確保する。

- ・ 防犯とプライバシーの両立

寮生が安心して生活できるように、必要な防犯対策を講じる。その際にはプライバシーにも十分配慮する。

(2) 女子学生の受け入れについて

活用案

a ハード面

- ・ **女子学生専用の水回り設備の設置**

浴室、トイレなどの水回り設備については、新たに女子学生専用の設備を設ける。また、これら水回り設備までの動線についても、可能な限り男子学生の動線と重ならないよう配慮する。

b ソフト面

- ・ **運営スタッフ・サポート体制**

男女共用寮における生活上のトラブル解決や心理的サポートなどが適切に行えるよう、女性スタッフの配置の有無も含め、性別に応じた対応が可能な体制を検討のうえ整える。

- ・ **入寮生の意識向上**

男子学生、女子学生それぞれの意識の違いや生活スタイルの多様性などについて、入寮時のオリエンテーションや寮生間の交流機会などを活用し、意識の向上を図る。

- ・ **生活ルールやガイドラインの策定**

在寮生や女子学生等の意見を踏まえ、新たに男女共同寮での生活にあたってのルールやガイドラインなどを策定する。また、適宜見直しを行う。

- ・ **男子寮としての魅力の維持**

男女それぞれの居住エリアや居住エリアまでの動線を分離し、男子学生専用のエリアを設けることで、男子寮としての魅力を維持する。

(3) その他

主な意見（抜粋）

【第2回検討会】

- ・ 大学院時代に2つの男女共用寮に住んだことがあったが、どちらも学生の自治寮という形態で運営していたが、寮を管理している第三者が同じ場所に住んでいたり、同じ敷地内に事務所を構えていた。
何かあった時にいつでも相談できる環境は必要だと思う。
- ・ 運営については、舎監のような存在もあるが、もっとプロフェッショナルな業者等に任せるのもいいのではと感じている。
- ・ 現在、定員割れをしているが、2年生以降からの入寮や、あるいは、学生が東京で就活する時に泊まれるホテルのような機能も追加して多機能的にすると、さらに交流が深まるのではないかと思う。
- ・ 舎監や寮母など寮を管理されている方々の横の繋がりがあれば、（男女共用も含めて）運営のノウハウや設備のデザインのコツについて、経験者から聞いて参考にすることや、アイデアをもらうことができ良いと思う。

(3) その他

活用案

第3章 その他

3-① 募集方法、入寮資格について

- ・ 現状

親元を離れ不安を抱えて上京する学生や、子どもを東京へ送り出す保護者にとって、親代わりの舎監と同郷・同年代の仲間に囲まれる安心感には他には代えがたいものであることから、養徳学舎の受け入れは大学生としてきた。

一方、毎年、募集人数を超える応募があるものの、志望校が不合格になったことによる辞退などにより、定員を満たしていない状況が続いている。

- ・ 入寮生確保の取組

令和7年度入寮生の募集から、大学の合格発表が早い学生が応募しやすくするため、募集時期を従前の1月から2月の1回のみであったものを2回に増やし、1回目の募集を11月から12月に、2回目の募集を1月から2月の実施に見直した。

引き続き、応募状況や空室状況等を勘案しながら、募集方法や入寮資格等についても検討を進める。

(3) その他

活用例

3-② 養徳学舎の運営について

a 施設の維持管理

・ 維持管理費用

今後も養徳学舎を適切に維持管理するために必要となる費用を算出し、適正な入舎金、寮費等を設定する。また、施設・設備の状況や経済状況、社会動向等を勘案し、概ね5年毎に定期的な見直しを行い、これに必要な見直し基準等を定める。

・ 維持管理体制の検討

維持管理のために、施設の安全点検や清掃、修繕などに必要なメンテナンス体制を整備する。

・ 寮生の維持管理への参加

継続して利用可能な居住環境を維持するため、寮生の維持管理への意識の向上を図る取組を推進する。

b 運営スタッフ

通常の維持管理に加え、寮生の安心・安全を確保するため、女子学生を受け入れるにあたり性別に応じた対応可能な体制とともに、以下の役割を果たせる運営スタッフを配置する。

・ 安全と規律を維持する役割

異なる年齢・性別や生活スタイル等を持つ寮生が共同で生活するため、運営スタッフの役割は寮内の規律と安全を確保するうえで重要である。例えば、運営スタッフが日常的に声かけ・見守りを行うことで、問題やトラブルが発生した際に迅速に対応が可能となり、寮生が安心して生活できる環境の維持に資すると考える。

(3) その他

活用案

b 運営スタッフ

- ・ 相談役としての役割

高校卒業後、初めて親元を離れ、初めての共同生活に不安がある新入生にとって、運営スタッフの存在は心の支えとなる。特に生活上のトラブル解決や心理的サポート等を積極的に行い、寮生の生活の質の維持・向上に寄与する。

- ・ 緊急時対応と健康管理の役割

夜間・休日も含め、寮内における緊急時に適切に対応する。また、寮生の健康管理について気を配り、体調やメンタルヘルスの不調等に迅速に対応し、必要に応じて医療機関と連携する。

3－③ その他

男女共用寮を設置・運用している他の自治体や民間の学生寮と連携し、男女共用寮における運営ノウハウや施設の有効活用などに関する情報共有等を積極的に行い、活用する。